

大分合同新聞

朝刊

創刊1886年(明治19年)

大分合同新聞社

〒870-8605 大分市府内町3-9-15

代表 ☎097-536-2121

Eメール info@oita-press.co.jp

© 大分合同新聞社 2017

朝夕刊 完全連続紙

6月17日
(土曜日)

大分合同新聞 (朝刊)

(第3種郵便物認可)

県北材の輸出本格化

市場から近距離 中津港から海外へ

輸送費減りメリット

中津港(中津市田尻)で6月から丸太の本格的な輸出が始まった。主な出荷先は中国や台湾。同港近くの中津木材相互市場(市内宮夫、若松定生社長)が旗振り役になって県北の4森林組合と協力。山に眠る県産木材の出荷先として期待が高まっている。

中津木材相互市場で扱う車で10分ほどの中津港に着るのは宇佐、豊後高田、国東、杵築地域の丸太。若松社長は、山から伐採しても輸送費が高いため赤字になり、出荷を断念する現状を多く見てきた。そこで市場から近いのは大きい。これまで

同社北九州営業所の伊与田秀一所長は「市場と港が

阪)に動き掛けた。

この地域の丸太は苅田港(福岡県)へ運んでいたが、中津港だとコストが半分で済む」と歓迎。円安傾向の継続と、中国向けの梱包材や加工用の木材需要が伸びていることも大きな後押しになり、採算ラインに乗せるめどがたつたという。

今月上旬、第1陣となるスギやヒノキの丸太2500立方メートルを中津港で船積みし、中国・上海へ送り出した。これから月に1船のペースで続け、年間3万立方メートルの輸出を目指す。丸太は東国東郡、西高、別荘速見、宇佐地区の各森林組合の協力で集荷。日田地域の市場からも買い付ける。中津港からの輸出は過去にもあったが、地元から広く丸太を集める形ではなく一時的な輸出にとどまっていた。若松社長は「地元の木材を集めて継続的に送り出せるのは心強い。これまでさばききれなかった丸太も扱えるはず」と喜ぶ。

県北部振興局農山漁村振興部は「県産材を県の港から送り出す意義は大きい。

伐採期を迎えた資源の有効活用のためにも素材(丸太)生産量の拡大につながれば」としている。(吉田美佳)



中国・上海に輸出する丸太の積み込み＝中津港